

「生命尊重」校長講話



いのちについて 生きたくてもいきられなかった『命』

『いのちのミュージアム』という施設には、交通事故で亡くなった方の等身大パネルと生前の写真・靴、事故の状況、家族からのメッセージが展示されています。たくさんのパネルが展示されている中に、同乗した車の無謀な運転により、19歳という若さで亡くなられ方のお母さまのメッセージがありました。そこには、辛く、胸が張り裂けそうなお家族の思いが記されていました。

母より…

1987年2月7日、1,680gの未熟児で我が家の長男として誕生しましたね。

そんなに小さく生まれた貴方が見上げて話をしなければならない立派な青年に成長してくれ、

優しい正義感のある自慢の息子だったよ。今年は成人式で、春には専門学校の卒業式だったのにね。皆と一緒に出席したかったよね。サイズがなかなか合わずに探し回った“お気に入りのスーツ”は、袖を通さないままになったね。3人家族になって食事をするとき、空いた席に…。思い出の詰まった家では、事あるごとに思い出しては貴方の口真似をし、一人芝居にも磨きがかかりました。ダンスの中のTシャツ、靴下、パンツ、だんだん裕太郎の匂いが無くなっていく…。寂しいよ…。

泣いてばかりの日々だったけど優しい貴方はきっと「自分のせいで、父母を悲しませている」と悔やんでいると思います。

「お父さんとお母さんとお姉ちゃんは大丈夫だから安心してね」…。突如として人生を終えなければならなかった貴方の無念。

あと50年はあったであろう貴方の人生。生きたかった貴方の分まで生き残ること、それが親の義務だからね。

貴方が残してくれたもの、人を愛することの素晴らしさ、人間の生き方の奥深さ、人情、思いやりの、感謝の気持ち、思い出、そして命の尊さ、貴方の自慢の家族は今でも4人だよ。

大好きなバイクに乗って走り抜けて行ったんだね。

今を生きている君たちへ

今 君たちは生きている
君たちの心臓は ドクンドクンと力強く命を刻む 昨日があって 今日があって
明日があって うれしかったり 悲しかったり 悔しかったり
生きていけばこそその日々を重ね 生きていけばこそその感情に揺れながら

今 君たちは生きている
でも僕らは様々な理由で ある日突然 命を絶ち切られてしまった

生きたくても 生きることが出来なかった
だから 生きているって 当たり前じゃないんだよ
君たちは 軌跡の命を生きている いとおしい命を生きている
かけがえのない命を生きている

今 君たちは生きている
生きていけばこそその夢をもって 生きていけばこそその希望をもって
生きたくても 生きることの出来なかった 僕らの分まで 精一杯 生きてほしい

今 君たちは生きている 生きていることは すばらしい

最後に…君たちへ

あなたの命は
ひとつしかありません
いとおしく
かけがえのないものです
他の命も同じです
決して奪ってはいけません
その命を大切に
自ら閉ざすことなく
永遠に守りつづけてください
そして どんな理由があっても
親より先に死んではいけません



ぜひご家庭でも、
いのちについてお話しする機会を
設けていただき
いのちの大切さや
いとおしくかけがいのない
ことを伝え、今月の取組を
さらに深めていただくと幸いです。

